

巻頭言



広島市長 松井 一實

「国際平和文化都市」の実現を目指して

新年、明けましておめでとうございます。

広島市は、まちづくりの最高目標となる都市像として「国際平和文化都市」を掲げています。本号では、その実現に向けた国際平和及び国際交流に関する取組を御紹介します。

本市は、国際平和の実現に向けて、多くの人々に広島を訪れてもらい、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を共有してもらうために、「迎える平和」を推進してきました。2023年5月には本市でG7広島サミットが開催され、世界の主要な国々の首脳が広島に集結しましたが、このことは、こうした取組の一里塚になったと考えています。残念ながら、昨今の世界情勢に目を向けてみると、ロシアのウクライナ侵攻や核兵器の威嚇、中東地域での紛争など、安全保障上の不安定要因が増しています。こうしたことから、本市では、被爆80周年を迎える今年、私が会長を務め、世界166の国と地域、国内外8,400以上の都市が加盟する平和首長会議の都市と共に、市民一人一人が日常生活の中で平和について考え行動する「平和文化」をより一層振興し、平和を願う市民社会の総意が世界中の為政者の心に届くような環境づくりに貢献していきたいと考えています。

国際交流・国際協力の推進については、「国際的に開かれた活力あるまち」を目標とし、様々な施策に取り組んでいます。本市では、米国・ホノルル市を始めとする海外6都市と姉妹・友好都市関係にありますが、平和や青少年など分野を絞った都市提携も行っており、2024年8月には、カザフスタン・セメイ市と交流・連携を促進していく合意書を取り交わしました。本市では、「ヒロシマ」の知名度をいかし、こうした海外諸都市との交流の推進や、市民主体の国際交流の促進に取り組むとともに、国連などの国際機関や二国間交流団体などとの連携を強化していきたいと考えています。また、人口減少が続く中で、将来にわたって活力ある地域社会を維持していくため、地域社会や経済の担い手としての活躍が期待される外国人市民にとっても、本市が生活の拠点となるよう諸環境を整える多文化共生のまちづくりを推進します。

本市では、これからもこうした取組を通じて、市民が世界に誇れる「まち」、そして、誰もが生きることの素晴らしさを心と体で実感できる「国際平和文化都市」の実現を目指します。

最後になりましたが、本年が皆様にとって実り多い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。